

2 研究の実際 > (2) 活動プログラムの実際 > エ 活動プログラムの実践
 <中学校(学年)> 活動プログラム①怒りについて知る



ペアやグループを意図的に構成して、実践しました！

1 活動プログラムの展開案において、グループでの活動がある場面を確認しました。

【活動プログラム1時目の展開案より】	【活動プログラム2時目の展開案より】
<p>○表にグループのメンバーの名前を書きましょう。気付かせる。 ①から順に、自分が何でにしたか発表して、表を完成させましょう。</p> <p>○表が完成したら、表を見て、互いの「怒りの温度計」を比べて、グループで気付きや感想を交流しましょう。</p> <p>【スライド5】 シートAの3に「怒りの温度計」を友達と比べて、自分の気付きや感想を書きましょう。</p>	<p>○次に、例のように、他の場面について、個人でリフレーミングをしてみましょう。</p> <p>○リフレーミングをした考え方を、グループの人と交流しましょう。</p> <p>○リフレーミングをした考え方を、発表してください。</p> <p>【スライド7】 きっかけとなる出来事① ・気付かなかっただけ ・わざとじゃなかった</p>
<p>学習活動3 「怒りの温度計」について気付きを考える (3) 「怒りの温度計」についてグループで話し合う</p>	<p>学習活動4 個人で「リフレーミング」した後、グループで交流する</p>

資料1 活動プログラム1、2におけるグループ活動の場面

2 学年(全3学級)において、「がばいシート」と「Q-U」アンケートを実施しました。

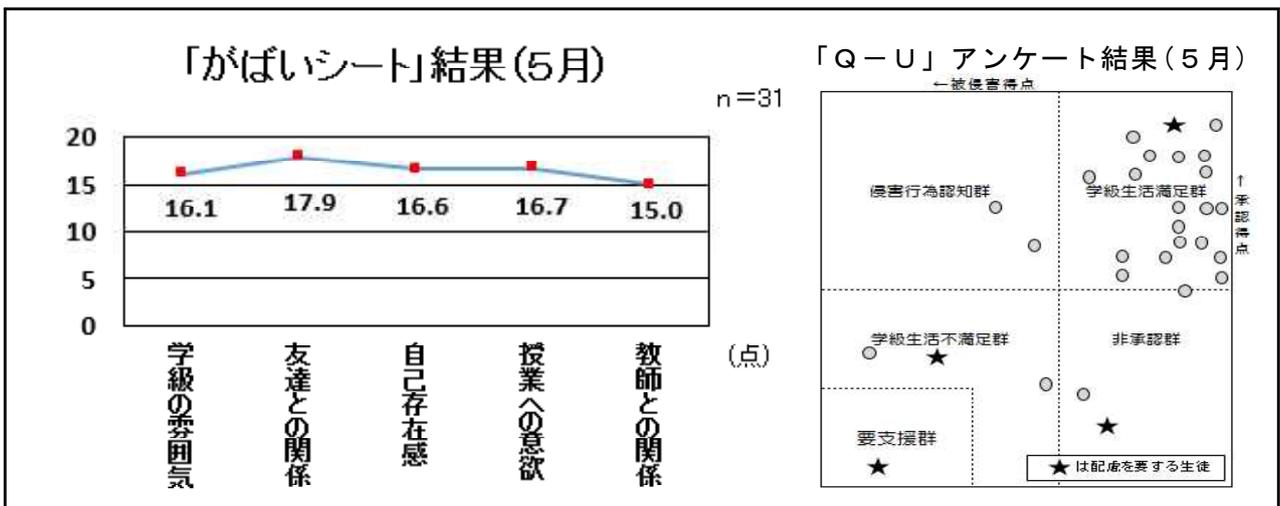


図1 1/3組の「がばいシート」と「Q-U」アンケート結果(5月)

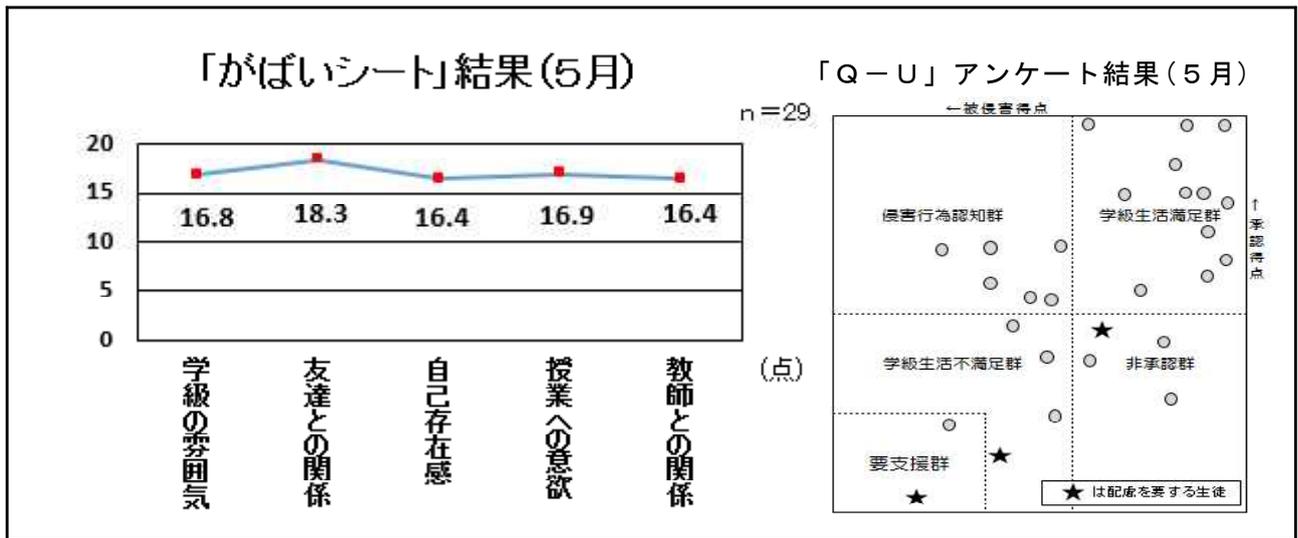


図2 2/3組の「がばいシート」と「Q-U」アンケート結果(5月)

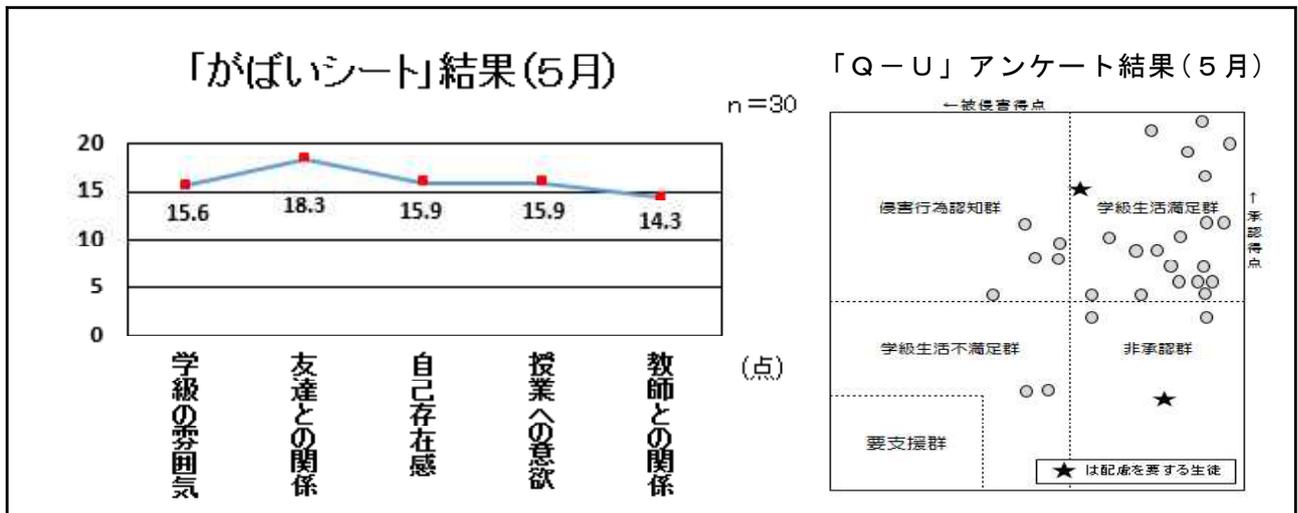


図3 3/3組の「がばいシート」と「Q-U」アンケート結果(5月)



3 学習のねらい及び「がばいシート」と「Q-U」アンケートの結果から、以下のようなグルーピングのための視点を挙げました。

- 怒りの理解や怒りへの対処法の学習を通した自己理解と他者理解を深めるため
 - ・日頃の交流がなく、関わりが少ない生徒同士を組む。
 - ・男女2人ずつの4人のグループを組む。
- グループでの活動が停滞しないようにするため
 - ・友達との関わりが苦手な生徒と、友達に対して柔らかい言動で接するなどの気遣いができる生徒を組む。
 - ・「怒りの温度計」がどのくらいになったかを伝え合う活動とグループでの気づきや感想を交流する活動を行うため、話し合い活動の進行ができる生徒をグループに配置する。



4 「グルーピングのためのアセスメントシート」を活用して、「Q-U」アンケートの結果と担任の観察を基にして総合的にアセスメントし、グルーピングを行いました。

※資料2は、個人情報保護のため、一部データを加工しています。

【取扱注意】																		
グルーピングのための アセスメントシート (中学校)		「Q-U」アンケートより (〇月〇日実施)								担任等の観察 (〇月〇日現在) ※該当する項目にチェック☑をしてください				グルーピング ※普段、関わりが少ない 生徒同士を組み合わせる				
		友人との関係				学級との関係				合計得点 (20点以下にチェック)	「怒り」について知る				この一週間で、トラブルがあった	友達との関わりが苦手である	友達に対して気遣いができる (◎か○を付ける)	(備考) ※グループピングに関する担任の見取りを記入する (例) 要支援群(「Q-U」アンケート)、 不登校傾向、○○さんとは×、 事前説明が必要◇◇に在籍、 など
		見られた	この一週間で、イライラした様子が	些細なことで、怒りやすいタイプである	傷付けたりする	怒ったときに、暴れたり、人やモノを	怒り	怒り	怒り									
No.	氏名																	
1	〇〇 〇〇	3	4	4	4	3	3	2	2	25						○		H
2	〇〇 〇〇	5	5	4	5	4	4	3	3	33								C
3	〇〇 〇〇	4	3	5	5	5	4	4	5	35								G
4	〇〇 〇〇										✓	✓	✓		✓			F
5	〇〇 〇〇	2	4	4	5	4	4	3	4	30			✓					E
6	〇〇 〇〇	4	5	3	4	5	5	5	5	36						○		G
7	〇〇 〇〇	5	5	3	5	5	5	5	3	36						◎		F
8	〇〇 〇〇	3	2	3	5	4	3	4	4	28								A
9	〇〇 〇〇	5	2	1	1	4	2	2	2	19								B
10	〇〇 〇〇	5	5	3	5	5	5	5	5	38	✓	✓			✓			H

資料2 「グルーピングのためのアセスメントシート」を活用したグルーピングの実際



5 実際の座席は、以下の点に気を付けて配置しました。今回、配慮した生徒は9名です。

※資料3は、個人情報保護のため、一部データを加工しています。

- ・ 話合いの進行ができる生徒を、可能な限り各グループに配置する。
- ・ これまでのグループ活動において友達同士のトラブルがあり、関係が修復されていない生徒同士の組み合わせを避ける。
- ・ 配慮を要する生徒を含むグループは、各学級の外側に配置する。
- ・ 授業は、体育館で学年全体で一斉に展開するため、「集合隊形」(左図)と「活動隊形」(右図)の2パターンを事前に指示する(次頁資料3)。

【集合隊形】

正面（ステージ）

【活動隊形】

正面（ステージ）

【座席表上の記号】

<p>◎（気遣いができる生徒）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 穏やかな言動 ・ 友達に対して声を掛けられることができる ・ 話合いの進行ができる 	<p>★（配慮を要する生徒）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達との関わりが苦手 ・ 怒りやすい ・ イライラさん ・ トラブルが多い
---	---

資料3 座席配置の実際



6 実際の授業は、以下の通りです。

過 程	● 配慮の実際	・ 生徒の反応や教師の気付き
<p>【授業前】</p>	<p>● 「集合隊形」と「活動隊形」での各学級の区画やグループ配置が分かるようにするため、事前に体育館の床面にテープで目印（ピンク）を付けた。</p> <div style="text-align: center;"> <p>【集合隊形時の目印】</p> </div> <p>● 授業当日の朝、担任から生徒に主な学習内容とそれに伴った隊形の移動等を伝えた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 座席の配置や隊形については、前日の帰りの会のときに説明した。事前に説明を行っていたため、「集合隊形」と「活動隊形」の移動をスムーズに行うことができた。 ・ 学習内容やグループ編成について、必要に応じて前日に伝える必要のある場合がある。

【授業中】

● 体育館で授業を行ったため、「集合隊形」と「活動隊形」のときの各グループの配置の目安として床面にテープで目印（ピンク）を付けた。



【グループ活動と配慮した生徒の様子】

- ・ 各グループの枠に目印を付けたことで、メンバーが適度な間隔で顔を寄せ合い、積極的に意見交換をする様子が見られた。
- ・ 初めは、配慮した生徒に戸惑った様子が見られたが、リーダーを中心に活動を促されながら笑顔で活動ができていた。また、自分の意見も伝えることができていた。
- ・ 意見を言い終わった生徒に対して、互いに拍手をしたり声を掛け合ったりする様子が見られた。

友達の怒りと自分の怒りが違うことを知った。自分の怒りをコントロールできたらいいなあと思った。



【配慮した生徒の感想】

【授業後】

● 配慮した生徒の様子を観察し、必要に応じて声掛けをした。

- ・ 授業後も、生徒同士が活動について教室で話題にする場面が見られた。
- ・ 生徒の授業中の様子や感想を学級通信等で伝えることで、保護者が意識をして子供と関わるようになると感じた。

実践してみたら、このような生徒の姿が見られました！

- ◆授業後の生徒の反応（「グループ活動アンケート」・「振り返りシート」より）
※配慮した生徒は9名で、グラフ上に人数を（ ）で示しています。

○グループ活動における生徒の友達に対する意識の変化について

・「グループ活動アンケート」の質問項目に対する生徒の回答の結果

※配慮した生徒は9名で、グラフ上に人数を（ ）で示しています。

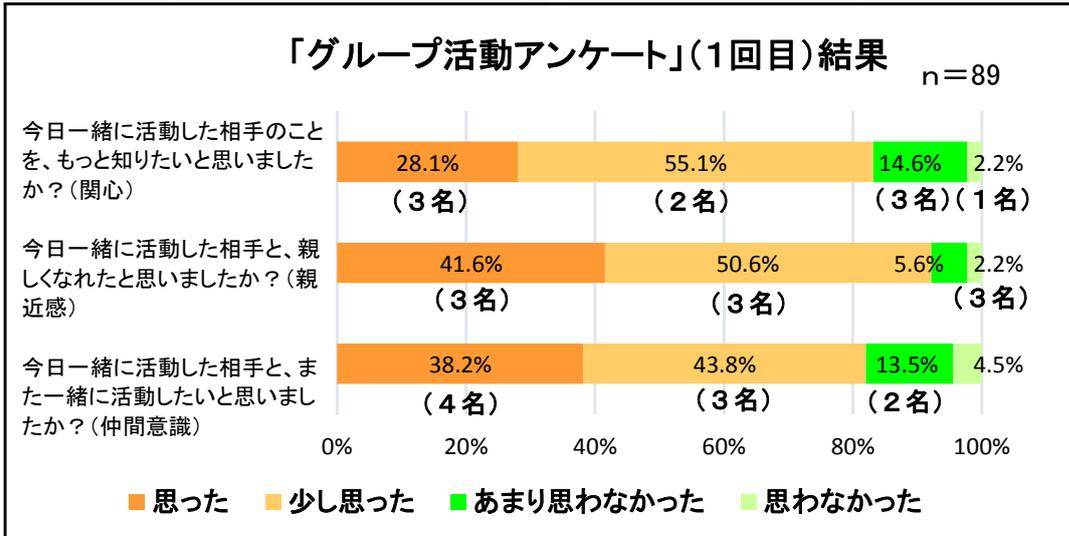


図4 「グループ活動アンケート」(1回目)結果

・配慮した生徒の感想



気軽に話し掛けてくれたり、分からないところをちゃんと教えてくれたりしたので、楽しく活動することができました。

○グループ活動で取り扱った「怒りについて知る」の学習について

・「振り返りシート」の質問項目に対する生徒の回答の結果

※配慮した生徒は9名で、グラフ上に人数を（ ）で示しています。

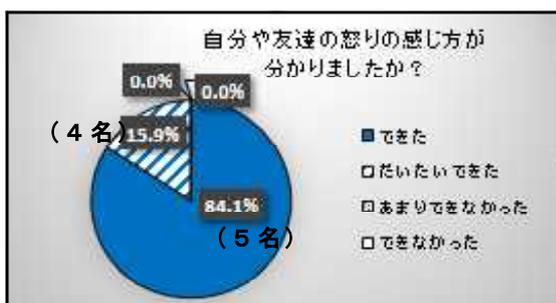


図5 自他の怒りの感じ方の理解について(1時目)

・生徒の感想



「怒り」の感じ方は、場面や人それぞれで違っていたので大変おもしろかったです。

なぜキレるのだろうと疑問に思っていたことが、温度計や風船を使って表すことで、その仕組みがよく分かりました。



○グループ活動を取り入れた学習への参加状況と学習内容に対する活用意欲について

・「振り返りシート」の質問項目に対する生徒の回答の結果

※配慮した生徒は9名で、グラフ上に人数を（ ）で示しています。



図6 学習への参加状況について (1時目)

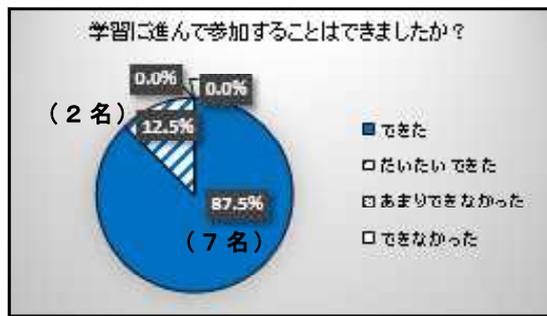


図7 学習への参加状況について (2時目)

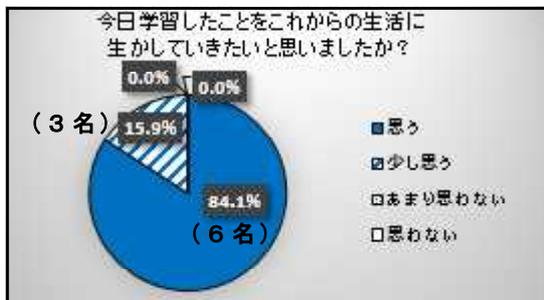


図8 学習内容に関する活用意欲について(1時目)

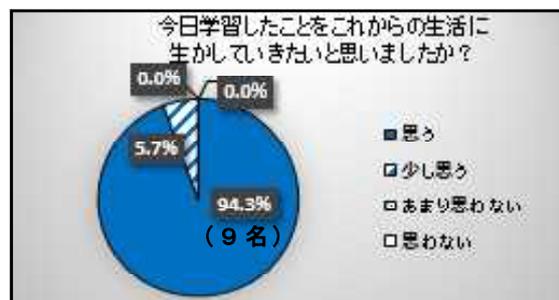


図9 学習内容に関する活用意欲について(2時目)

・生徒の感想



自分と友達では、怒りの感じ方や程度が違うことを知りました。これからは、周りの友達も自分も心地よく過ごせるように気を付けていきたいです。

イライラしたり怒ったりするのは人それぞれだと知りました。すぐに怒りをぶつけるのではなく、後悔しなくてよいようにうまく気持ちをコントロールしながら生活したいと思います。



◆授業後の教師の感想



いつもの授業形態とは異なっていましたが、体育館いっぱいに広がった活動ということで新鮮な気持ちで取り組むことができました。普段、あまり一緒に活動しない友達とのグループ活動でしたが、怒りの温度計や風船を使った怒りの仕組みなどを話題にして互いに楽しんでいる様子でした。自分の気持ちを伝え合うシェアリングの場面においても、自分の言葉で丁寧に伝える姿と、友達の言うことを真剣に聴き入る姿が多く見られて感心しました。配慮した生徒は、いつもよりも友達と一緒に積極的に活動する場面が見られました。